

## コーディネーターとしての事業に対する意見シート

■事業名：伊賀市男女共同参画フォーラム いきいき未来いが 2005

■コーディネーター氏名：中盛 汀

所属：W.T.A まちづくりセンター

■ふりかえり会議開催年月日：平成 17 年 3 月 22 日(火)

### 1. 協働のプロセスについて意見

伊賀市の人権政策部男女共同参画課が事務局となる「男女共同参画ネットワーク会議」の中でフォーラムの実行委員を募り、実行委員会で企画・実施をする、という流れの中で、協働相手が決まっているよう。昨年からは会としても男性会員が入会し、実行委員会にも参画。決まった予算枠を初めから提示し、その中で企画を立てる。意見交換も活発に行われ、いいプロセスで進んだとのこと。問題なども特になく、改善点を次年度に活かすべく話し合いも実施。前向きに取り組まれている様子が伺えた。

### 2. 成果についての意見

フォーラム自体の参加者は450名ほどあり、当日配布アンケートも171通戻され、男性からのものも多かったとのこと。参加者にも年々男性が増えているようで、少しずつ成果が出ているのでは、という話も。全体予算が減っている中で、講師謝礼を考えて選んだという講師の話が分かりやすく、中身があったそう。身近な人からの話のほうが参加者には雲の上の話ではなく、親しみやすかったということがあり、また今後も予算が削られていく中でヒントになったのではないかと。

### 3. 課題・改善の整理とまとめ

予算ありきのため、実施が継続されているが、今後のことを考えると、会自体のあり方を考えていくことも、フォーラムの参加者に対する会への参加呼びかけや会費徴収などを検討すること等、まだまだ考えられることも多いのではないかと。事務局である行政に任せきりでよかったのかという疑問もあった、との話もあり、今後は作業一覧表を作り役割分担をするなどの方法も有効ではないかと思う。また、行政、民間、それぞれの視点から今後の改善点についての意見が出されており、協働ならではの視点で相乗効果を得られると思う。

### 4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

11月の合併に伴い、旧上野市から会員を伊賀市全体に募っていくそう。より広範囲になって、まだまだ郡部では男女共同参画が浸透していない、との意見も出され、今後、会員を広げていく中で、ぜひ会議の開催場所を中央だけではなく、参加しやすいように地域を回ったりするような工夫もされたらどうか。また、独立していけるような将来展望も必要ではないか。

フォーラムありきだけではなく、ほかの面でも実行委員会を立ち上げ、啓発やセミナーなどの企画も期待したい。

参加された人だけではなく、参加できなかった方にもフォーラムの議事録公開なども検討されたい。

地域的に見てもまだまだ参加費を募ったりできるほど浸透していないと思うとの意見も出されたので、次のステップにつながる事業もぜひ検討してほしいと思う。

チェックシートについて、分かりにくい、書きにくいという意見も出された。より広げていくためには解説も作ったほうがいいのではないか。また、解釈の相違などからチェック項目に影響もあり、改善できる点があれば改善し、それも話し合いで進めたほうがいいなら、そのあたりの使い方の説明も必要。

コーディネーターとしての事業に対する意見シート

■ 事業名： 「男女共同参画社会促進事業」

■ コーディネーター氏名：安村 富子

(みえ市民活動ボランティアセンター 市民プロデューサー)

■ ふりかえり会議開催年月日：平成 17 年 3 月 22 日 (火)

### 1. 協働のプロセスについての意見

伊賀市男女共同参画フォーラム「いきいき未来いが 2005」開催に向け、男女共同参画ネットワーク会議に登録している個人及び団体から実行委員を募集。

毎年行われている形式なので、協働の前提となる行政と市民側の意思疎通や意見交換に問題はなかった。

予算についても年々厳しくなる中、実行委員は理解を示し講師の選定も予想以上に好評であった。費用分担に関するチェックリストは解釈の違いによって差が出てくるので、リストの表現自体の曖昧さがもたらす結果かもしれない。

### 2. 成果についての意見

今回の事業の成果目標は、参加者が地域・職場・家庭等で学んだ事を反映させ、社会変革の契機になることを期待することであり、また、実行委員会との共催・協力を経てフォーラムに多数の参加者を呼ぶことである。前者に関しては変革とまではいかないが、少しずつあたたかい空気を感じているという。ただこうした意識改革は、はっきりとした形ですぐに結果がでるものではないので、評価自体難しいのではないか。もうひとつのねらいである当日動員は 450 名にのぼり大成功であった。アンケート結果 (回収 171 名) もおおむね好評であったという。

県民局を介して近隣の名張市と情報交換をしたり、他市との新たなネットワークも築く事ができた。自治会や商工会議所がネットワーク会議メンバーなので、男性の参加が増えたことは一定の成果である。

### 3 課題・改善のまとめ

この種の事業は、意識の高い委員に支えられながらも、どうやって全体の底上げを行えるかがポイントである。今回行政と実行委員会の協力体制に問題なく、特に市民側の行政に対する信頼感が強く感じられた。

実行委員の熱意に助けられながら事業は成功したが、委員としてもっと自主的にできる事があったのではないかという反省が聞かれた。委員は、当初このふりかえり会議を持つことを負担に思っていたが、話し合う機会をもてた事や、事業を通して協働を理解できるようになったという意見が聞かれた。

市側は、女性問題は人権問題であるという認識の下、いかにして旧市町村へのネットワークを広げていくか課題を理解している。

#### 4 事業全体についての意見・感想

毎年、県内各地で開催される男女共同参画フォーラムの意義は疑うものではない。この伊賀地域においても封建的な風土であり、大きなインパクトをねらってまだまだこうした事業は必要であろう。しかし一方、市職員が出前講座を行い、小さな集まりで男女共同参画の意識改革を目指していると聞いた。こうした本音が出るような小さな講座に予算を回すほうが効果的ではないだろうか。回数を重ねる地道な活動こそが一番大事ではないか。やがて、こうした講座を実行委員経験者が担う事で男女共同参画に対する意識がさらに高まっていく事を期待したい。入場料を取れるようなフォーラム開催は時期早々であるという意見も出たが、県外から知識人を呼んで行うイベントにはない、地元に着した地元民による事業が企画されてもいい頃ではないかと思う。